

令和6年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報 告 地 区：留萌地区
- 2 事例報告学校名：天塩町立啓徳小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 吉 田 久
- 4 キーワード：学校統廃合の滑らかな移行、地域・関係機関・学校間連携

1 はじめに

天塩町は、留萌管内の最北端にあり、本校が位置する雄信内（片仮名でオヌプナイと表記されることもある）地区は自然豊かで、酪農が盛んな地域である。

本校は、隣接する4地区の小学校と順次学校統廃合となり、町内唯一の小中併置校であったが、中学校が閉校し小学校のみとなった。それ以降も地域の過疎・少子化、校舎の老朽化も加わり、望ましい教育環境を維持することが困難となったため、令和6年度をもって閉校となる。

令和7年度の学校統廃合に向けて、本校が小規模校（児童数11名）ということもあり、教育委員会、統合する天塩小学校、進学先となる天塩中学校等との連携を強化し、児童・保護者・地域住民にとって、本校の統廃合が滑らかな移行となるような教育活動を推進している。

2 滑らかな移行を目指した学校経営

(1) 児童自身が感じる弱みの克服に向けて

本校の諸調査・学校評価アンケート等の結果を見ると、児童の自己肯定感に関する数値の個人差が大きい。この要因の一つとして、極狭い児童の人間関係による多様な他者との対話経験の不足が考えられる。自分の考えを伝えつつ、周囲の考えを参考にしたり、折り合いをつけたりする場面が少ないことから、自信がもてず、広く自分の考えを伝えることを苦手としている児童が多い。統廃合後の学校生活を見据え、他校との合同学習や校外での教育活動等で、児童自身が感じる弱みを克服する意識を高めたい。

このような課題の改善に向けて、児童個々における「個別レベルアッププラン」を複数の教職員で設定し、全教職員で共有するとともに、教育活動での指導・支援に活用している。「レッツ・トライ！」をキーワードとして、児童自身が感じる弱みの克服に向けて、「考えて・決めて・行動する」教育活動を推進している。

1学期学校評価結果より（別紙参照）

<成果>

- 安全な学校生活に対する意識
- 思いやり、自己有用感
- 授業の振り返りの実践
- 夢・目標をもった学校生活
- 端末を活用した教育活動
- 総合的な学習の時間の取組

<課題>

- 自己肯定感（個人差大）
- 協働的な学び（児童・教職員の間）
- 地域貢献（児童・教職員の間）
- デジタル教科書（児童の取扱）

1学期児童の目標反省・振り返り作文より（5・6年生）

<成果>

- 最後まであきらめずにやり抜く
- 地域住民・仲間・他校児童等との協力
- 思いやりをもった行動
- 初めてのことへの挑戦
- 自主的な行動

<課題>

- 計画的・主体的な家庭学習
- 仲間との協調性
- 合同学習等での主体性
- 行事等での協力性

1学期学校統廃合反省より

- ★「家・庭・学・習」→毎日・工夫・意欲
- ★「振り返り」→次に生かす・別な場面でも活用
- ★「協働的な学び」→他者の考えを取り入れる・他者の考えを認められない・自分の考えに誘導周りに合わせてしまう・他者とは学習できない・「違っている＝間違っている」
- ★「自律的な学び」→経験・自己肯定感の低下が原因・特定の学習に対する意欲低下・面倒
- ★「感謝・謝罪」→言葉が足りない・言いそびれる・すぐにできない
- ★「他者意識」→相手の思いを考えていない・会話が広がらない
- ★「判断」→迷い・不安
- ★「積極性」→欠ける・もじもじ・周りを置いてきぼり
- ★「積極的な心」→その時の気分・声をかけないと・個人の好みではなく

「考え・決めて・行動する」を継続しつつ、子どもの成長と教職員の実践レベルアップ

子ども個々のよさを生かし、子ども自身が感じる弱みを克服する！  
キーワードは「レッツ・トライ！」

「子ども」→こんな自分になりたい！・挑戦したい！・仲間とこんな学校にしたい！  
「サッタープロジェクト」から「トライ！プロジェクト」へ移行

「教職員」→子ども個々にあった支援・見守り・支え・助言・任せる（放任×）・待つ  
「個別レベルアッププラン」の実践

(2) 地域・関係機関との連携

① 「ま歩く」登校

約3分の1の児童がスクールバスにより登校していることもあり、毎月初め、登校前に全児童が雄信内支所に集まり、町役場・警察署・町内会等の協力を得て、徒歩による登校を行っている。警察署員による交通ルールの指導を受けるとともに、児童会が地域住民と気持ちのよい挨拶を交わそうと呼びかけるなど、地域と連携した取組となっている。

② エゾヤマザクラ・ハマナスの苗木の植樹

留萌振興局産業振興部・森林室等との連携により、学校のグラウンド



にエゾヤマザクラとハマナスの苗木の植樹を行った。当日は、道立総合研究機構森林研究本部から講師を招き「森のはたらき」についての授業を行い、児童・保護者・教職員・関係機関職員で植樹を行った。植樹した苗木に児童のメッセージ入りのプレートを付け、児童にとって思い出深い取組となった。

③ 他校への学校訪問を軸とした交流学习の実施

管内の小規模校と連携し、オンラインと学校訪問を併用した交流学习を行っている。特に学校訪問の際は、教育委員会に働きかけて移動用のバスを確保し、全児童による宿泊学習を実施した。普段、交流の少ない他者との学習活動により、児童にとって多面的・多角的に物事を考える貴重な経験となった。



3 同校種・異校種間連携の推進

(1) 同校種間連携（小小連携）

令和7年度の統廃合を滑らかに移行するために、統合先となる天塩小学校と年間15回の合同学習を実施している。教育委員会と連携して、統廃合後に合わせて登下校時のスクールバスを運行し、登校から下校まで天塩小学校の日課で学習活動を行うほか、プール学習やスキー学習等を合同で行っている。合同学習の実施を通して、児童はもとより、保護者にとっても統廃合後の学校生活をイメージできるように配慮している。



(2) 異校種間連携

① 小中連携

本校には現在、6学年の児童が特別支援学級を含めて4名在籍している。特に特別支援学級在籍児童にとっての、いわゆる「中1ギャップ」を回避するため、当該児童による中学校訪問、中学校特別支援教育コーディネーターによる当該児童の学校生活の参観等を実施している。これらを通して、両校の特別支援教育コーディネーター・特別支援学級担任との情報共有を図るとともに、当該児童の現状と中学校進学後の課題について協議している。

② 小中高連携

町内の天塩高等学校と連携を図るため、まずは校長同士のつながりを深めることを目的として、天塩町小・中学校長会の定例会に天塩高等学校長を招き、各学校間の情報共有を行っている。これをきっかけとして、学校行事における相互の学校訪問や授業参観はもとより、高校生が天塩中学校の授業に参加し、数学の学習方法を中学生にアドバイスする取組を行うなど、町内の小・中学校と高等学校との連携についても充実を図っている。

4 おわりに

本校は、開校以来119年の歴史に終止符を打つこととなる。

11月には、閉校記念式典と惜別の会を挙行し、歴任教職員・卒業生・地域の方々等と共に本校の歴史と功績を振り返ることができ、たくさんの参加者から閉校を惜しむ声を拝聴する場となった。この1年間、閉校業務と並行して、統廃合が児童・保護者・地域住民にとって滑らかな移行となるよう、関係各所と連携するとともに、本校教職員の創意を生かし、児童にとって一生の思い出となる1年間になるように学校経営を進めてきた。

今年度で地域から学校はなくなるが、数年後には児童が心を込めて植えたエゾヤマザクラが満開となり、ここ雄信内の地に春の訪れを感じさせてくれることだろう。

